

年頭にあたって  
喜びをもって集う場に

俣野尚子(日本 Y W C A 会長)

2014年の7月。安倍政権は、議会で議論せず、閣議決定で、集団的自衛権の行使を行えるようにした。日々の報道の中で、知らず知らず、「攻めてくるものから守ろう」という空気が私たちの中に漂ってくる。近隣諸国の体制を専門家や評論家が分析する。私たちは日本に住む外国籍の方、また留学生はどのような思いでそれを聞いているのであろうかと想像することがあるだろうか。

東京オリンピックを積極的に誘致し、「福島原発の事故は、今はアンダーコントロール」と言った、時の首相である安倍晋三氏のプレゼンテーションは重い。にもかかわらず、いよいよ、いつでも、どこでも、戦うことが可能な国家になっていく。

そこで、国際団体である Y W C A の存在は大変重要になってくる。国と国の関係がうまくいなくなり国家の対角線が切れるとき、そこに行き交う人々の顔と顔の見える関係を築く活動をしている東京 Y W C A の働きは大きい。昨年末には、中国 Y W C A の介護研修のため、東京 Y W C A ヒューマンサービスサポートセンターの方々の力を得た。国際語学ボランティアズ いりぶ I L V、「留学生の母親」運動などの活動は人と人、国境と国境を越えていくための歩みを続けているからこそ、平和の尊さを訴えることができるのである。

また、生活するのにしんどい思いをしている多くの女性たちがいる。子育てで、介護で、夫婦の関係において、などいろいろあるが、その中で、東京 Y W C A の板橋センターや国領センター、武蔵野センターでは、子どもに接する場があることも大変重要になってくる。Y W C A は、多くの人が満足するサービスを提供するのではない。

私は、思う。Y W C A はすごく大きくなくてもいい。しかし、人々の心の涙に敏感でありたい。そして、人と人の出会いによって、心暖まる空間を築いていきたい。私たち一人ひとりのただ中に、イエス・キリストの愛ある関係を築いていきたい。会館に足を運ぶ人が、流していた涙が、笑顔に変えられる、そのような、Y W C A でありたいと思い描くのである。だからこそ、Y W C A に参与する人々が生き生きと喜びをもつ

て集う場になってほしいと。人が集まれば、問題が起きる。問題のないのが、問題ではない。問題は、その困難を克服する力がどれだけ内在されているかということであろう。

聖書に記された、「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を」とのみ言葉に力を得たい。